わがまち「竜王」を輝かせる人々

～2014年 竜王町「交竜の郷(こうりゅうのさと)あえんぼ賞」受賞者の皆さん～

昨年11月8日、「交竜の郷あえんぼ賞」の表彰式が行われ、皆さんに推薦いただいた中から、選考の結果、3者の個人・グループが受賞されました。

竜王町は、私たちの周りで、広く地域を支える奉仕活動や社会に貢献する活動、人知れず地道で心温まる活動、他の模範となるような善行活動などを行っているこれらの人・グループに深く感謝し、町民皆さんの心豊かな住みよいまちづくりへの参加が広がることを目指します。

川上 甲津(こうづ)・俊子(としこ)さん

30年以上にわたり読書活動の推進と啓発を続けられ、地域や地元の民話を掘り起した童話作品作りは約10作品にもおよぶ。

「読書を楽しみながら、子どもたちと話したり歌を歌ったりして、やりたいことをやってきただけ」と話されるのは、地元川上地区に読書会「しらさぎ文庫」や読書活動を通じた親子のふれあいの場「うさぎクラブ」を立ち上げ、読書の喜びと楽しさを伝える活動を30年以上にわたり続けておられる甲津さん。その活動は読書のみならず、地元の夏祭りや敬老会などで子どもたちと一緒に大型紙芝居を披露されたり、町内の小・中学校で読み聞かせボランティアグループとして地元の民話などを題材にした手作り紙芝居の公演をされるなどして読書による交流の輪を広められています。

『今日もありがとう』の地域の人の声や『学校の図書室行く回数増えたわ』、『また来てや』の子どもたちの声が「何よりの喜び」と話される甲津さん。「以前、子どもたちがお礼の手紙を書いて持って来てくれたことがあって、本当に続けてきて良かったと感じました」と、こんなやり取りも子どもたちの成長を感じ、活動への意欲が湧き出す瞬間なのだそう。そんな後押しもあって、「まだまだできることはやっていきたいです」と頼もしさを見せられる甲津さんは、町公民館の自主活動グループ「竜王読書会」では会員に読書指導を行い、後継者育成にも余念がありません。

多くの人が人生でより多くの本と出合い、豊かな心を育む糧になることを願って、今後も本と人、人と人を結ぶ取り組みを続けていかれます。

読書活動を通じて常に子どもたちに寄り添い、見守られる甲津さん(川上自治会夏祭り)

「しらさぎ文庫」での絵本の読み聞かせ

信濃

中江文子さん

なかえ・ふみこ

町内の園児(5歳児)に書道体験の指導を行い、日本の伝統文化に触れ、子どもたちの豊かな心を育む機会を提供。

真剣に書に向き合う園児一人一人に丁寧な指導をされる中江さん

「筆を倒さずに立てて持つときれいな字が書けるわよ」と、園児の背中に回って筆を持つ手を取り、平仮名の一文字を半紙に書かれるのは、信濃地区で書道教室を開かれている中江峰楓(ほうふう)(文子)さん。毎年5歳児を対象に書道体験として書初めの指導に当たられ、子どもたちが日本文化の書道に触れることにより、達成感を味わい、自信を持つことで豊かな心情を育む機会を提供されています。

こうした機会を持たれたきっかけは、平成10年から竜王町の姉妹都市である米国スーセー・マリー市との友好親善事業で市の使節団が来町された際、書道体験の講師として活動されていたことから、「竜王町で何かお役に立てないか」という思いを強く持たれたことに始まります。

体験中は普段にぎやかな園児たちも筆を持つと真剣な顔で半紙とにらめっこするそうで、「5歳で筆に墨をつけて半紙に書くというのは初めてのことだと思います。一生懸命な様子がとてもかわいらしいんです」と体験中の子どもたちの様子を楽しそうに話され、子どもたちとの関わりに喜びを感じておられます。

心静かに精神を集中し、ゆったりと過ごす書の時間は、「きっと将来に役立つ経験になり、思い出となってくれるはず」と子どもたち一人一人と向き合い、個性を引き出す過程を大切にされている中江さん。その温かな眼差しは、子どもたちの輝く未来を見つめられています。

町内

かめかめくらぶさん

代表の山口幸子(やまぐち さちこ)さんと李優子(り うじゃ)さん(右)

2000年に竜王西幼稚園に保護者の自主活動サークルとして発足。地域や学校でのミニ手話講座など、手話を広める活動をされる。

1 竜王西小学校での手話体験　2 美松台公民館での手話勉強会

14年前、ろうあ者の山口さんとの出会いをきっかけに「手話でろう者とお話できるようになれたらいいね」と、竜王西幼稚園の保護者の自主サークルとして発足された手話サークル「かめかめくらぶ」。当時は、幼稚園の絵本室を借りて手話勉強会を開かれながら、園児たちへ手話を使った歌や劇を披露して活動されてきました。その後も活動の場を小学校の空き教室や町公民館、美松台の公民館に移しながら、難聴児や町内外のろう者、町内の中・高校生やベテランの手話通訳者と仲間を増やし、手話学習のほか、依頼を受けて小・中学校の福祉体験としての手話講座や高齢者向けの手話出前講座を開かれ、町内各地で活動されています。

李さんは、「手話学習を通して聴覚障がい者や、さまざまな障がいのある人への理解を深めたい。また、障がい者差別だけではなく、あらゆる差別のない町にしたい」と活動への思いを語られ、山口さんは「地域の子どもたちも手話を見る機会が増え、手話は珍しいものではなく、当たり前にあるものになってきたことがうれしいです」と手話への理解が広まってきたことを感じておられます。

これからも「かめかめくらぶ」という名前のとおり、手話を架け橋として、聴覚に障がいのある人と子どもから高齢者までの幅広い交流の輪を広げる活動をゆっくりと進めていかれます。